

## 矢部貞治略歴

- 1902年(明治35)11月9日 鳥取県気高郡美穂村大字向国安(現鳥取市向国安)に生れる  
美穂小学校を経て、鳥取中学卒業
- 1923年(大正12) 3月 第一高等学校文科甲類卒業  
4月 東京帝国大学法学部政治学科入学
- 1925年(大正14)10月 文官高等試験合格
- 1926年(大正15) 3月 東京帝国大学法学部政治学科卒業  
4月 同大学法学部助手
- 1928年(昭和3) 5月 同大学助教授
- 1932年(昭和7) 4月 政治学講座担任
- 1933年(昭和8) 高等試験委員
- 1935年(昭和10) 4月 文部省在外研究員として米・英・独・仏に留学
- 1937年(昭和12) 5月 帰国  
9月 『政治学講義要旨』(弘文堂)  
12月 大学制度審査委員会幹事  
外務省嘱託として北支に出張
- 1938年(昭和13) 4月 『欧州政治原理講義案』上・下(弘文堂)  
6月 議会制度審議会幹事  
9月 東方文化学院評議員(～1942年〔同17〕9月)
- 1939年(昭和14) 8月 東京帝国大学教授  
9月 行政学講座兼任(～1944年〔同19〕8月)
- 1940年(昭和15) 4月 明治大学講師  
5月 『最近日本外交史』(日本国際協会)  
6月 海軍省嘱託
- 1941年(昭和16) 3月 高等官二等 正五位
- 1942年(昭和17)10月 外務省嘱託  
11月 勲四等
- 1943年(昭和18) 6月 海軍大学校教授嘱託(1945年〔同20〕9月解除)  
8月 行政学講座兼任を免ぜられ分担を命ぜられる(1944年〔同19〕8月分担も免ぜられる)
- 1944年(昭和19)10月 大東亜省嘱託(1945年〔同20〕8月自然廃官)  
12月 総合計画局参与(1945年〔同20〕6月依願免官)
- 1945年(昭和20) 2月 学術研究会議人文科学研究動員委員会幹事  
4月 『新秩序の研究』(弘文堂)  
高等官一等  
7月 内閣嘱託  
10月 従四位 勲三等  
12月 東京帝国大学教授依願免官
- 1947年(昭和22) 4月 『民主政機構の基礎原理』(弘文堂)  
11月 『政治学』(海口書店)  
12月 『協同主義の政治理論』(協同主義協会)
- 1949年(昭和24) 3月 『世界政治情勢と日本の進路』(労働出版部)  
4月 『民主主義の本質と価値』(弘文堂)  
10月 『政治学』(勁草書房)  
12月 『民主主義の原理』(立花書房)
- 1950年(昭和25) 4月 訳書ハンス・ケルゼン『ボルシェヴィズムの政治学的批判』(労働文化社)

1951年(昭和26) 3月 『政治学入門』(弘文堂)  
10月 『近衛文麿』上(弘文堂)  
1952年(昭和27) 4月 早稲田大学大学院講師  
5月 『近衛文麿』下(弘文堂)  
1953年(昭和28) 10月 選挙制度調査会委員(1957年〔同32〕10月・1959年〔同34〕10月・  
1961年〔同36〕6月・1965年〔同40〕11月再任)  
11月 『国家・民族・階級』(世界民主出版部)  
12月 政治学博士  
『新しい日本の進路』(高山岩男と共編 勁草書房)  
1954年(昭和29) 2月 『民主主義の基本問題』(弘文堂)  
1955年(昭和30) 3月 拓殖大学総長兼教授  
5月 選挙制度調査会委員として英国出張  
10月 『協同主義の政治・国家論』(協同組合懇話会)  
12月 行政審議会委員(1958年〔同33〕10月再任)  
1956年(昭和31) 7月 『憲法改正問答―なぜ憲法は改正せねばならぬか』(綜合文化社)  
10月 公安審査委員会委員(1958年〔同33〕9月・1962年〔同37〕8月・1965  
年10月再任)  
1957年(昭和32) 3月 訳書ウォルター・リップマン『公共の哲学』(時事通信社)  
編著『曲がり角にきた社会党』(新紀元社)  
10月 憲法調査会委員 副会長に互選される  
1958年(昭和33) 5月 訳書ヒュー・ゲイツケル『共存を挑まれて―イギリス人の立場』(時事通  
信社)  
6月 『三大宰相列伝―近衛文麿』(時事通信社)  
1959年(昭和34) 4月 中央教育審議会委員(1961年〔同36〕4月再任)  
5月 『日本政治の反省』(鹿島研究所)  
10月 選挙制度審議会委員  
1960年(昭和35) 2月 文部省東南アジア教育調査団団長として・カンボジア・タイ・マラヤ・  
インドネシアに出張(12月まで)  
1961年(昭和36) 1月 憲法調査会海外調査団団長として・北米・メキシコ・ペルー・チリ・アル  
ゼンチン・ウルグアイ・ブラジルに出張(3月まで)  
1963年(昭和38) 8月 『民主社会を支えるもの』(鹿島研究所)  
10月 『小野塚喜平次―人と業績』(南原繁・蠟山政道と共著 岩波書店)  
1964年(昭和39) 6月 拓殖大学総長兼教授辞任  
選挙制度審議会副会長(～1967〔昭和42〕年)  
1965年(昭和40) 6月 日本評論家協会会長  
11月 訳書C・ロシター J・レーア編『リップマンの真髓』(時事通信社)  
1966年(昭和41) 4月 早稲田大学客員教授  
社団法人国際情勢研究会会長  
『二十一世紀の日本』論文審査委員  
6月 明治百年記念準備会議委員  
1967年(昭和42) 2月 訳書フレデリック・ワトキンス『イデオロギーの時代』(時事通信社)  
1967年(昭和42)5月7日 午後11時55分 東京都世田谷の自宅で死去  
正三位 勲一等瑞宝章  
1968年(昭和43) 4月 『日本に遺す』(鹿島研究所)

参考 『拓殖大学論集』32・33号(1963年4月、矢部貞治博士還暦記念号)  
拓殖大学図書館『矢部文庫分類目録』